

## 教育学部同窓会 東京支部同窓会訪問記

本部理事 恩田元穂

平成21年度の東京支部総会は、10月3日(土)に原宿の東郷記念館・水交会で開かれた。東京都やその周辺から約30人の会員が集い、1時間以上も延長する有意義な会になった。私は、ホームカミングデー出席のため参加できない田中瑩一会長に代わって参加した。知人の少ない会という不安もあったが、事前に伊藤範子会長(昭和46年卒)・木下正次顧問(昭和22年卒)からご丁寧な連絡を載っていたので、会が始まってすぐに打ち解けた気分になった。

この会は、第1部は経験豊かな先輩からの講話を拝聴する「学びの時間」、第2部は互いの近況を語り再会を喜び合う「交流の時間」という設定で進んだ。

第1部は、伊藤支部長挨拶、同窓会本部挨拶、新谷智人法文同窓会東京支部長挨拶、飯塚鉄雄氏によるミニ講話と続いた。第2部は昼食の小宴と歓談で、成瀬巖氏の健康講座に続き、ユーモアの中に会員の生き方が垣間見える自己紹介・近況報告が行われ、最後に「ふるさと」を斉唱してお開きとなった。

東京支部会は今年もこのように盛大に行われ、会員のつながりの輪を広げてきているが、ここ数年参加者10数名程度と低迷し、支部総会で「存続について」の提案が出るほどの危機的な時期があったようである。

一昨年度、東京支部結成50周年を期に、伊藤支部長をはじめとする若い役員を盛り立てるなどの支部活動を活性化するための企画が持ち上がった。そこでは木下顧問をはじめ過去の支部長・役員が自主的に集まり、内部体制、特に役員組織の充実を図る。会員が参加してよかったと感じるように会の内容を「楽しく・元気で・役に立つ」ものにする。また、参加者を増やすために役員が会員に直接誘いの電話を入れるなどの方策が立てられた。

当日も、旧支部長等の役員が1時間前に会場に来て、若い事務局の指示で担当の仕事を進める。ミニ講話「私の週1ゴルフ健康法」では誰でもできるストレッチの方法が示され、健康講座「成ちゃんの元気一番ツボ健康法」ではツボを押さえる手製の竹筒が配られた。(ミニ講話は10年間の予定が決まっているとのことである)また、ある会員のスピーチでは「2人から電話が来て断れなく参加した」という報告があったが、このように新しい企画がどんどんなされその効果を上げている。



語り合い

東京支部も、今後の支部を担う人をどう育てていくかの懸念はあるが文理学部との共同開催など、夢を持って進めることで新しい活路を見出すことにつながるような気がしてならない。



成瀬さんの健康講座